

力を合わせてC・Sを推進しましょう

「C・S活動推進のための情報共有」

7月26日、交流センターで、地域在住の元教職員「高草会」の皆さんと小中学校長さん、チャレンジ施設長さんが「情報交換会」を行いました。「教育ボランティア」として協力を惜しみません。



学校の先生の「働き方改革」が、多くのメディアで取り上げられています。様々な原因が考えられ、対策がとられていますが、地域でやれることを積極的に実行することも、その一助になればと思います。『学校と共にある地域』が、C・S活動推進の原点となることを願っています。

◎ 地域の歴史や文化を伝える取り組み

「井伊の赤兜（あかかぶと）」づくり

中里八幡宮は、中里で生まれ江戸幕府初期に活躍して彦根藩の第2代藩主となった井伊直孝が寄進し、400年祭を迎えます。



井伊家といえば「赤備え（あかぞなえ）」で有名ですが、赤い兜のペーパークラフトに子どもたちが挑戦しました。「中里倶楽部」の皆さんや講師のご指導で立派に完成できました。この兜を着け、地域の先人に誇りを持って祭りの行列に参加してください。

「方の上：えんま堂の縁日」

方の上「えんま様」は、「赤穂浪士（あこうろうし）討入り」事件のあった江戸時代に、吉良家の家来の発願で作られたと伝わります。



地域に伝わる古いお話や文化財を大切に守るとともに、子どもたちに上手に伝えることも大事にしたいものですね。

紙芝居でお話を聞いたり、縁日のにぎやかな「お店屋さん」で楽しく過ごしたりした思い出が「地域を愛する心」を育てます。

◎ それぞれの地域の「個性あるお祭り」

持ち味を生かしてお祭りを盛り上げる

7月20日、中里会館広場での「納涼の夕」には東中生の店番さんの活躍もあり、小中学生が楽しく参加していました。



「若宮レディース」のリードで、子どもも大人もみんなそろって楽しい踊りの輪が広がり、広場全体が明るい雰囲気につつまれていました。

みんなで協力してお祭りをつくりあげる

8月2日、山の手会館広場で行われた「山の手夏祭り」では、多くの区民の皆さんの参加協力で祭りが盛り上がっていました。



コロナ禍を超えて復活したお祭りは、以前よりスリム化され、上手に役割分担し、協力して楽しいお祭りをつくりあげ、ビンゴ・盆踊り・ゲームや花火に子供たちの笑顔があふれていました。

C・S活動を「インスタ」[cshigashimashizu]でもご覧下さい。